

この質疑応答録は、2020年7月29日(水)に開催したアナリスト、ファンスマネージャー向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

質問 1

コンクリート構造物向け工具の今期第1四半期と前期第1四半期の売上実績を教えてください。

回答 1

コンクリート構造物向け工具の今期の売上実績は国内が9億円、海外が28億円弱となりました。前年実績は国内が9億円強、海外が29億円でしたので、国内、海外ともに若干のマイナスとなりました。

数量ベースでは、国内の機械が10%半ばの減少、消耗品は10%弱の増加となりました。海外の機械は10%半ばの減少、消耗品は微増となりました。

質問 2

スライド17より、北米のインダストリアル機器部門の売上高は増収となり、欧州では減収です。それぞれ、コンクリート構造物向け工具の機械と消耗品の販売はいかがでしたか。

回答 2

北米では機械が前年並み、消耗品はプラスでした。一方、欧州では機械、消耗品ともにマイナスとなりました。

質問 3

スライド7より、海外機工品事業は5月中旬より営業活動を再開しているとのことです。欧米地域の活動は通常に戻っていますか。また、営業活動はWEB等の活用で可能なのか、現場に行く必要があるのか、どちらでしょうか。

回答 3

まだ現場によっては訪問ができないところが多くあります。その状況下、WEBコンテンツを活用しながらの情報発信や取引先セールスマンのトレーニング活動などを行い、規制解除後に販売活動を加速することができるよう取り組んでいました。

質問 4

新型コロナウイルスの影響下の鉄筋結束機「ツインタイア」の実需はどのように考えていますか。

回答 4

国内や海外の建設現場は、その期間においても、インフラ整備など稼働が止まることがなかつたため、

消耗品を中心にある程度、販売できていました。ただし、機械に関しては規制等による活動制限を受けたことで、販売が減少しました。

質問 5

今期計画では、国内機工品事業のコンクリート構造物向け工具の機械の販売が回復するのは下期になりますか。

回答 5

土木現場の今後の稼働状況については想定できませんが、非居住建築物の着工床面積が減少しているため、あまり大きな伸びは計画しておりません。

質問 6

インダストリアル機器部門の下期売上高は上期に対し約 20 億円増加する計画ですが、その差額の主な要因は、鉄筋結束機「ツインタイア」販売の持ち直しですか。

回答 6

国内、海外機工品事業では、鉄筋結束機等のコンクリート構造物向け工具に限らず、全般的に回復すると見込んでいます。国内新設住宅着工戸数が減少することも想定されますが、木造建築物向け工具も上期に対しては増加する計画としています。

質問 7

第1四半期のインダストリアル機器部門のセグメント利益率が 13.7%と高くなっていますが、要因を教えてください。

回答 7

インダストリアル機器部門のセグメント利益率の水準は、成長投資として一過性の費用が発生した前期第4四半期を除けば、販売製品の構成変化などにより、収益性が改善しています。第1四半期は、活動制限等により販促費や旅費交通費などの固定費が減少したことにもプラスに働きました。また、米国において前期第1四半期まで 25%の関税が課せられていた製品がありましたが、前期第2四半期以降は課税対象外となり、コストが減少したことにも影響しています。

■オフィス機器部門について

質問 8

オートステープラ事業の売上高が、新型コロナウイルス感染症の影響で中国工場が稼働停止していた前期第4四半期より、さらに減少しているのはなぜでしょうか。

回答 8

取引先様の在庫調整の影響がどの程度かは判りませんが、在宅勤務の影響などにより、複写機の需要減だけでなく、オフィスでの紙の使用量が減っていることが考えられます。そのため、オートステープラ事業の販売は（複写機に内蔵する）機械だけでなく、消耗品も数量ベースで大幅に減少となりました。

質問 9

今期計画では、オーステープラ事業は下期に大幅な回復となる計画ですか。

回答 9

オーステープラ事業の販売は第2四半期が底になると見込んでいます。その後の先行きに関しては、取引先様の在庫調整が終われば、ある程度は回復していくだろうと想定しています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が7月29日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。